

## 国際交流・社会貢献等の概要

### 海外との協定等

- ・ハワイ大学宗教学部との協力に関する共同声明 2002.9  
両者間の教員・学生の交流、研究、企画、会議の継続的協力
- ・中部イタリア神学学部との文化交流協定 2007.1  
2005,2006年にお互いを公式訪問したことを機に文化交流を開始  
教員・学生の受け入れ、ならびに宗教的文化の交流

### 国際学会・シンポジウムの開催

- ・高野山国際密教学術大会 (ICEBS) 2006.9.5-8 (於高野山大学)  
創立120周年記念事業として開催。「密教文化の歴史と展望」をテーマに、  
アメリカ・イギリス・中国等をはじめ海外12カ国の密教・宗教研究者約250名  
が出席。 ※記録誌(非売品)は図書館等でご覧ください。

付. 静名誉教授が尽力して設立した空海研究会(1988～福建省)では  
2010.4「第1回中国密教国際学術シンポジウム」(於中国・西安)を開催。  
同教授は1984年「空海・長安への道」訪中団団長として福州(赤岸鎮)から西安  
(青龍寺)までの2400キロを踏破。1988年に空海研究会を福州に設立。  
2004「空海と日中文化交流国際学会」(上海・復旦大学)の開催にも尽力。  
(日本人発表者の論文は『弘法大師空海と唐代密教』として公刊)

### 国際交流事業・海外調査 等

- ・チベット・バングラデシュの海外学術調査
- ・空海・長安への道 福州から西安を踏破
- ・イタリア・カトリック教の神父等との異文化交流
- ・外国人研究者招聘による研究会・講演会等
- ・学生参加型の交流事業  
近年は、大学主催によるものよりも、現地とのコネクションを有する教員が、印度・唐・西藏・  
糸綫之路(シルクロード)などの呼称で馴染み深い地域に密教・マンダラ・書道等の調査・  
研究・見学で赴く場合に、学生を募集。
- ・ナムギャル僧院の僧侶による砂マンダラの作成  
高野山大学創立125周年を記念して実施した「ダライ・ラマ法王招聘事業」に伴い、  
砂マンダラ(金剛界マンダラ)の作成を見学・記録する目的で、ナムギャル僧院の僧侶  
10数名をお招きした。砂マンダラは、2011年11月1日から2日にかけて、本学にて開  
催された、ダライ・ラマ法王による「チベット密教 金剛界マンダラ灌頂」に用いられた。  
(2012.3)

### 社会貢献活動

- ・各種生涯学習講座、21世紀高野山医療フォーラム、伝統教学復興プロジェクト など  
各事業の告知はHP、各事業記録はHP情報公開の各年度事業報告書を参照のこと。  
教育・研究機関として、在学生のみならず、広く社会に生涯学習の機会を提供する  
こと、社会に資する研究についてその成果を流布していくこと、先人より受けついで  
文化についてその価値を再確認して継承・発展させていくことを大切な使命と心得て、  
各種の講座を開催しています。
- ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の発信  
世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を構成する高野山、その歴史・文化等を研究・  
発信していくことも、国際交流につながるものとして教育・研究に取り組んでいます。

・高野山大学創立125周年記念事業「ダライ・ラマ法王招聘事業」

高野山大学創立125周年記念事業として、チベット仏教の最高指導者、ダライ・ラマ法王14世をお招きした。大阪市 舞洲アリーナならびに高野山大学松下講堂黎明館にて、2011年10月30日から11月3日までの期間、講演会やチベット密教の灌頂、さらには科学者や本学学長との対談など、多岐にわたるプログラムを催した。4日間で総勢8,000名(延べ人数)の方が参加された。この時の講演会の模様は、『傷ついた日本人』(新潮新書462、2012年4月)として、出版されている。

(2012.6)

大学間連携

・コンソーシアム和歌山

和歌山県下の高等教育機関が連携して各種事業を実施しています。  
<http://www.consortium-wakayama.jp/>

・過年度実績(一部)

和歌山大学が代表となって県下高等教育機関が連携した「大学改革推進等補助金 戦略的大学連携支援事業 観光を主軸とした知の拠点形成のための戦略的大学連携」に参画。(H20～22年度)  
京都・嵯峨芸術大学との間で両部曼荼羅制作にかかる共同研究。(H20～H22)

産学官連携

和歌山県立医科大学が代表となった「平成20年度低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業」に参加(H20)しましたが、本学独自に産業界と連携した企画はありません。(2011.9現在)